

会津若松市公共下水道事業計画書

公共下水道管理者 会津若松市長

工事着手の年月日 昭和 48 年 7 月 10 日

工事完成の予定年月日 平成 33 年 3 月 31 日
令和 10 年 3 月 31 日

第1表の1

予定処理区域調書			
処理区の名称	面積 (単位ヘクタール)	摘 要	
会津若松処理区	1,845 2,000		
予定処理区域の面積	1,845ヘクタール 2,000ヘクタール	予定処理区域内の地名	福島県会津若松市「区域は下水道計画一般図表示のとおり」

第1表の2

予定排水区域調書			
予定排水区域の面積	1,657 ヘクタール	予定排水区域内の地名	福島県会津若松市「区域は下水道計画一般図表示のとおり」
	1,688 ヘクタール		
排水区の名称	面積 (単位ヘクタール)		摘 要
—	—		
南四合排水区	18		
柳原町排水区	55 54		
飯寺排水区	105 19		
館脇町排水区	11		
道西排水区	3		
中野排水区	2		
年貢町排水区	3		
御旗町排水区	5		
川原排水区	2		
城西町排水区	10		
—	—		
応湖排水区	99		
古川第3排水区	4		
古川第3-1排水区	2		
古川第3-2排水区	1		
薬師排水区	6		
小田第1排水区	69		
藤室第1-1排水区	19		

排水区の名称	面積 (単位ヘクタール)	摘要
藤室第2-1排水区	14	
藤室第3排水区	21	
金川町排水区	16	
七日町排水区	36	
栄町排水区	82	
諏訪排水区	69	
鶴ヶ城排水区	62 64	
南町排水区	43	
五月町排水区	18	
八日町第1排水区	1	
八日町第2排水区	2	
緑町第1排水区	8	
緑町第2排水区	7	
新横町排水区	4 1	
大町排水区	198	
別川排水区	97	
扇町排水区	44	
不動川第1排水区	12	
不動川第2排水区	20	
下荒久田排水区	4	

排水区の名称	面積 (単位ヘクタール)	摘要
東山排水区	31 19	
天寧排水区	5	
石山排水区	7	
湯本排水区	11	
水沢排水区	1	
上原排水区	1	
東山第1排水区	1	
東山第2排水区	9	
東山第3排水区	2	
東山第4排水区	2	
東山第5排水区	- 12	
寺屋敷排水区	6	
八角排水区	134	
湯川第1排水区	18	
湯川第1-2排水区	1	
湯川第2排水区	4	
湯川第2-1排水区	1	
湯川第2-2排水区	1	
湯川第3排水区	26	
湯川第3-1排水区	14	

排水区の名称	面積 (単位ヘクタール)	摘要
湯川第4排水区	4	
八幡排水区	1	
鶴賀排水区	30	
居合排水区	57	
大塚山排水区	47	
亀賀排水区	23	
中島排水区	3	
吹屋川第1排水区	2	
吹屋川第1-1排水区	14	
松長排水区	80	
吹屋川排水区	5	
金山川排水区	5	
錦町排水区	12	
物流基地東排水区	46	
— 宮沢第1排水区	— 0.2	

第 2 表の 1

吐 口 調 書 (汚水)						
処理区 の名称	主要な吐口の 種類	主要な吐口の 番号又は名称	主要な吐口の 位置	計画放流量 (m ³ /秒)	放流先 の名称	摘要
会津若松 処理区	処理施設	会津若松市 下水浄化工場 放流渠	神指町大字北 四合字外川原	0.421 0.432	阿賀川	放流先の 低水量 26.58m ³ /S 25.75m ³ /S

第2表の2

吐 口 調 書 (雨水)						
排水区 の名称	主要な吐口の 種類	主要な吐口の 番号又は名称	主要な吐口の 位置	計画放流量 (m ³ /秒)	放流先 の名称	摘要
小田第一 排水区	分流式 雨水管渠	6	明和町	6.557 6.407	古川	
柳原町 排水区	分流式 雨水管渠	29	柳原町三丁目	6.486 6.282	湯川新水路	
諏訪 排水区	分流式 雨水管渠	35	緑町	4.091	旧湯川	
栄町 排水区	分流式 雨水管渠	36	八日町	6.623	旧湯川	
七日町 排水区	分流式 雨水管渠	37	五月町	3.796	旧湯川	
大町 排水区	分流式 雨水管渠	49	町北町	15.334 15.535	沼川	
扇町 排水区	分流式 雨水管渠	52	町北町	6.108 5.919	沼川	
大塚山 排水区	分流式 雨水管渠	42	一箕町	6.426 7.142	不動川	
八角 排水区	分流式 雨水管渠	43	一箕町	15.447	不動川	
天寧 排水区	分流式 雨水管渠	17	東山町	1.579 5.739	湯川	
別川 排水区	分流式 雨水管渠	51	町北町	7.843 8.064	沼川	
物流基地東 排水区	分流式 雨水管渠	58	インター西	7.661	準用河川 第2沼川	
— 南四合 排水区	— 分流式 雨水管渠	— 32	— 神指町大字 南四合	— 13.666	— 湯川新水路	
— 鶴ヶ城 排水区	— 分流式 雨水管渠	— 26-1	— 新横町	— 7.931	— 湯川	

第3表の1

管 渠 調 書 (汚水)				
処理区 の名称	主要な管渠の内のり寸 法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メー トル)	点検箇所 の数	摘要
会津若松 処理区	—	—		圧送管
	⊙100	70		腐食の恐れのある管渠はなし
	⊙200	760		既設760 圧送管 〃
	⊙250	1,040		既設1,040 圧送管 〃
	⊙200	4,610 5,340		既設2,770 既設4,030
	⊙250	2,440 2,700		既設1,820 既設2,320
	⊙300	3,380 3,880		既設3,330 既設3,380
	⊙350	2,060		既設2,060
	⊙400	3,240	1	既設3,240 方法：マンホール内からの管内目視も しくは管口テレビカメラを用いる方法 頻度：5年に1回以上 <平面図No. 3>
	⊙450	3,390	1	既設3,390 方法：マンホール内からの管内目視も しくは管口テレビカメラを用いる方法 頻度：5年に1回以上 <平面図No. 2>
	⊙500	3,500		既設2,770 既設3,500 腐食の恐れのある管渠はなし
	⊙600	1,040		既設1,040 〃
	⊙700	5,420		既設5,420 〃
	⊙800	6,340		既設6,340 〃
	⊙900	1,790		既設1,790 〃
	⊙1000	2,160		既設2,160 〃
	⊙1100	500		既設500 〃
	⊙1350	3,060	1	既設3,060 方法：マンホール内からの管内目視も しくは管口テレビカメラを用いる方法 頻度：5年に1回以上 <平面図No. 1>
	⊙1650	990		既設990 腐食の恐れのある管渠はなし
	⊙1800	1,860		既設1,860 〃
合 計		47,580 49,140	3	既設44,340 既設46,880

第3表の2

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
小田第1 排水区	□ 1,200 × 1,000	210		既設
	□ 1,200 × 1,200	210		既設
	└─┘ 1,400 × 1,300	40		既設
	□ 1,500 × 1,250	170		既設
	□ 1,500 × 1,500	110		既設
	□ 1,750 × 1,500	350		既設
	□ 1,800 × 1,800	150		既設
	小 計	1,240		うち既設1,240m
七日町 排水区	└─┘ 2,000 × 1,000	230		既設
	└─┘ 2,100 × 1,400	20		既設
	▽ 2,200 1,500 × 1,300	200		既設
	└─┘ 2,800 × 1,400	90		既設
	□ 2,800 × 1,200	200		既設
	□ 2,800 × 1,500	20		既設
	小 計	760		うち既設760m

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
柳原町 排水区	┌─┐ 800 × 800	70		バイパス管 (柳原町2号)
	┌─┐ 1,100 × 800	300		バイパス管 (柳原町1号)
	┌─┐ 1,500 × 600	10		既設
	┌─┐ 1,500 × 900	170		
	┌─┐ 1,500 × 900	10		既設
	┌─┐ 1,500 × 1,000	260		うち既設80m
	┌─┐ 1,500 × 1,000	10		既設
	┌─┐ 1,600 × 1,000	10		既設
	┌─┐ 1,800 × 600	40		既設
	└─┘ 1,800 1,200 × 600	210		既設
	┌─┐ 1,800 × 900	20		既設
	└─┘ 2,000 1,600 × 1,000	130		既設
	┌─┐ 2,000 × 1,000	30		
	┌─┐ 2,300 × 850	60		既設
	┌─┐ 2,500 × 1,500	30		既設
	┌─┐ 2,500 × 1,500	330		既設
	┌─┐ 3,000 × 1,250	10		既設
	┌─┐ 3,000 × 1,400	190		既設
	小 計		1,890	

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
栄町 排水区	□ 1,200 × 1,000	740		既設
	□ 1,200 × 1,000	270		バイパス管 (栄町1号)
	□ 1,300 × 1,000	150		バイパス管 (栄町1号) ・ 既設
	□ 1,200 × 1,300	10		既設
	▽ 1,300 1,100 × 1,250	860		既設
	□ 1,500 × 1,000	1,330		バイパス管 (栄町1号) ・ 既設
	▽ 1,550 1,350 × 1,200	370		既設
	▽ 1,550 900 × 1,200	220		既設
	▽ 2,000 1,400 × 1,200	70		既設
	□ 2,000 × 1,000	40		既設
	□ 2,500 × 1,300	10		既設
	▽ 2,900 2,000 × 1,250	70		既設
	小 計	4,140		うち既設3,870m

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
諏訪 排水区	▽ 750 × 500 600	80		既設
	▽ 800 × 800 650	340		既設
	□ 800 × 800	90		
	□ 800 × 850	10		
	□ 900 × 900	370		バイパス管 (諏訪1号)
	□ 900 × 850	10		
	□ 1,000 × 1,000	90		うち既設40m
	□ 1,000 × 1,200	100		既設
	□ 1,200 × 800	30		既設
	□ 1,200 × 1,000	90		
	▽ 1,200 × 1,050 1,000	40		既設
	▽ 1,200 × 1,100 600	120		既設
	▽ 1,250 × 850 700	100		既設
	□ 1,300 × 1,000	180		
	□ 1,400 × 1,000	110		
	▽ 1,350 × 1,050 1,000	30		既設
	▽ 1,450 × 1,000 1,080	40		既設
	□ 1,500 × 1,000	160		既設
	□ 1,550 × 1,100	40		既設
	▽ 1,600 × 1,000 1,100	20		既設
□ 1,800 × 1,600	10		既設	
小 計		2,060		うち既設1,150m

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
大町 排水区	┌─┐ 1,500 × 1,500	180		既設 (内更正工法70m)
	└─┘ 1,550 950 × 1,700	70		既設
	└─┘ 1,700 1,000 × 1,000	130		既設
	┌─┐ 1,800 × 1,750	140		バイパス管 (大町3号) 既設
	┌─┐ 2,200 1,800 × 1,300	10		既設
	┌─┐ 2,300 × 1,400	20		
	┌─┐ 2,300 × 2,000	160		既設
	┌─┐ 2,300 × 2,200	20		既設
	┌─┐ 2,400 × 1,800	10		既設
	└─┘ 2,500 2,200 × 1,300	60		既設
	└─┘ 2,600 2,300 × 1,800	10		既設
	└─┘ 2,900 2,300 × 1,300	10		既設
	┌─┐ 3,000 × 2,000	20		既設
	┌─┐ 3,000 × 1,600	170		既設
	┌─┐ 4,300 × 1,800	1,120		既設
	┌─┐ 4,300 × 2,100	10		既設
	┌─┐ 4,300 × 2,300	10		既設
	┌─┐ 5,000 × 1,200	70		既設
	┌─┐ 1,200 × 900	10		
	┌─┐ 1,300 × 900	620		

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
大町 排水区	□ 1,500 × 1,200	10		既設
	□ 1,300 × 800	10		
	□ 1,000 × 1,000	320		内バイパス管320m 既設
	▽ 1,200 × 850 1,000	340		既設
	□ 1,000 × 900	10		既設
	□ 900 × 1,060	80		既設
	□ 900 × 800	50		既設
	□ 1,600 × 800	20		既設
	▽ 1,600 × 800 1,200	190		既設
	□ 1,800 × 900	90		既設
	□ 1,800 × 1,000	20		既設
	▽ 2,000 × 1,800 1,500	170		既設
	□ 1,900 × 1,100	10		既設
	▽ 1,400 × 1,300 1,000	60		既設
	▽ 1,420 × 1,030 1,270	40		既設
	□ 1,900 × 1,900	10		既設
	□ 1,300 × 1,300	70		
	□ 1,400 × 1,300	90		
	□ 4,300 × 2,100	10		既設
	□ 3,500 × 1,800	210		内20m既設

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
大町 排水区	□ 5,500 × 2,100	10		既設
	□ 1,100 × 1,000	150		バイパス管 (大町1号)
	▽ 600 1,000 × 1,370	70		バイパス管 (大町3号) 既設
	小 計	4,890		うち既設3,270m
別川 排水区	⊙ 1,300	150		バイパス管 (別川1号)
	└─┘ 2,300 × 2,000	150		
	小 計	300		

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
扇町 排水区	□ 1,100 × 1,400	70		既設
	□ 1,500 × 1,500	40		既設
	□ 1,500 × 1,700	30		既設
	□ 1,600 × 1,700	130		既設
	□ 1,800 × 1,700	30		既設
	□ 2,000 × 2,000	20		既設
	└┐ 2,000 × 2,000	20		既設
	└┐ 2,000 × 1,600	30		既設
	□ 2,000 × 1,500	30		既設
	└┐ 2,000 × 1,300	160		既設
	└┐ 2,200 × 1,100	60		
	▽ 2,600 1,400 × 1,200	50		既設
	▽ 2,700 2,100 × 1,500	60		既設
	└┐ 2,700 × 1,200	560		既設
	└┐ 3,000 × 1,400	960		既設
	▽ 4,000 2,200 × 1,200	180		うち既設120m
	小 計		2,430	

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
天寧 排水区	□ 2,000 × 1,200	60		
	—	—		
	□ 1,500 × 1,500	80		
	小 計	60 80		
八角 排水区	◎ 1,000	10		バイパス管 (八角1号) 既設
	□ 1,000 × 1,000	160		バイパス管 (八角1号) 既設
	—	—		
	□ 1,100 × 1,000	10		
	□ 1,300 × 1,000	100 190		うち既設100m
	□ 1,300 × 1,350	160		既設
	□ 1,800 × 1,000	20		既設
	□ 1,800 × 1,800	90		既設
	□ 2,100 × 2,100	180		既設
	□ 2,400 × 2,400	490		既設
	□ 2,800 × 2,700	770		既設
	□ 3,600 × 2,100	20		既設
	□ 3,600 × 2,700	10		既設
	小 計	2,010 2,110		うち既設2,010m

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
大塚山 排水区	┌─┤ 2,100 × 1,600	120		既設
	┌─┤ 2,100 × 2,000	170		既設
	┌─┤ 2,200 × 2,000	100		既設
	┌─┤ 2,200 × 2,700	10		既設
	┌─┤ 2,500 × 2,500	20		既設
	┌─┤ 2,700 × 1,500	30		既設
	┌─┤ 2,700 × 1,600	70		既設
	┌─┤ 2,700 × 1,800	40		既設
	⊙ 2,800	60		既設
	┌─┤ 2,800 × 1,500	10		既設
	┌─┤ 2,800 × 1,600	40		既設
	┌─┤ 2,800 × 2,200	10		既設
	小 計	680		うち既設680m
	物流基地東 排水区	┌─┤ 3,000 × 1,000	200	
┌─┤ 6,000 × 2,500		10		既設
┌─┤ 6,000 × 2,900		70		既設
┌─┤ 6,000 × 3,000		10		既設
小 計		290		うち既設290m

管 渠 調 書 (雨水)				
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位ミリメートル)	延長 (単位メートル)	点検箇所 の数	摘要
— 南四合 排水区	□ 3,500 × 1,500	1,560		
	小 計	1,560		
— 飯寺 排水区	□ 1,800 × 1,500	480		
	□ 3,000 × 1,500	780		
	小 計	1,260		
— 鶴ヶ城 排水区	□ 1,900 × 1,500	340		
	小 計	340		
— 東山第5 排水区	□ 1,000 × 1,000	130		
	□ 1,300 × 1,300	120		
	□ 1,400 × 1,300	550		
	□ 1,400 × 1,400	70		
	小 計	870		
合計		20,740 24,900		

第 4 表

処理施設調査								
終末処理場等の 名称	位置	敷地面積 (単 位ヘクタール)	計画放 流水質 (mg/L)	処理 方法	処理能力		計画処 理人口 (人)	摘要
					晴天日最大 (単 位立方メートル)	雨天日最大 (単 位立方メートル)		
会津若松市 下水浄化工場	会津若松市 神指町大字 北四合字伊 丹堂 99番地	7.3	15	標準 活性 汚泥法	36,400 37,330	—	81,300 70,350	計画下水量 (日最大) 36,400 m ³ /日 37,330 m ³ /日 全体計画処理能力 (日最大) 41,700 m ³ /日 34,440 m ³ /日 流入水質 BOD 225 mg/L 200 mg/L SS 210 mg/L 処理水質 BOD 15 mg/L SS 10 mg/L

終末処理場等の敷地内の主要な施設						
終末処理場等の名称	主要な施設の名称	個数	構造	能力	摘要	
会津若松市 下水浄化工場	流入管渠	1式	鉄筋コンクリート造り	流量 約1.8m ³ /sec		
	沈砂池	3池	鉄筋コンクリート造り	約1,800m ³ /sec 水面積負荷 約1,800m ³ /m ² /日	施設3/3 設備2/3	
	主ポンプ	2台	汚水ポンプ	鉄筋コンクリート造り	揚水量 約8.0m ³ /分	2/2
		1台			揚水量 約8.0m ³ /分/基	1/1
		1台	汚水ポンプ	鉄筋コンクリート造り	揚水量 約16.0m ³ /分	1/1
		3台			揚水量 約16.0m ³ /分/基	3/3 (内予備機1台)
		1台			揚水量 約21.0m ³ /分	1/1
		1台			揚水量 約34.0m ³ /分	1/1
	—	—	—	—	—	
	最初沈殿池	8池 5池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷 約50m ³ /m ² /日	8/8 5/5	
	エアレーションタンク	10池 8池	鉄筋コンクリート造り	滞留時間 約8時間	10/11 8/8	
	送風機	1台			風量 約20m ³ /分	1/1
		1台			風量 約75m ³ /分	1/1
		2台			風量 約150m ³ /分	2/2
		2台			風量 約85m ³ /分	2/2 (内予備機1台)
	最終沈殿池	10池 8池	鉄筋コンクリート造り	水面積負荷 約20m ³ /m ² /日	10/11 8/8	
	塩素接触タンク	1池	鉄筋コンクリート造り	接触時間 約15分	水路2/2	
	放流渠	1式	鉄筋コンクリート造り	流量 約2.7m ³ /sec		
	汚泥濃縮タンク	2基	鉄筋コンクリート造り	固形物負荷 約60kg/m ² /日	2/2	
	機械濃縮設備	2基		浮上面積 約4.0m ² /基 処理能力 約20m ³ /時	2/2	
	汚泥消化タンク	3槽	鉄筋コンクリート造り	消化日数 約20日	3/3	
	ガスタンク	1基 2基			容量 約800m ³ 容量 約800m ³ /基	1/1 2/2
1基 —		容量 約1,200m ³ —			1/1 —	
汚泥脱水機	4台 5台			約10m ³ /時 含水率 約80%	4/5 5/5 (内予備機1台)	
管理棟	1棟	鉄筋コンクリート造り	水質試験室、事務室、受変電室、会議室			
沈砂池・ポンプ棟	1棟	鉄筋コンクリート造り	受変電室、会議室 沈砂池・ポンプ井			
汚泥処理棟	1棟	鉄筋コンクリート造り	脱水機室、電気室、脱臭機室 混和タンク室、汚泥濃縮タンク			
機械濃縮棟	1棟	鉄筋コンクリート造り	機械濃縮機室、起泡助剤希釈槽、余剰汚泥貯留槽、 凝集剤溶解槽、濃縮汚泥貯留槽 混合汚泥貯留ポンプ室			
水処理覆蓋	1棟	鉄筋コンクリート造り	最初沈殿池(8/8)、エアレーションタンク(10/11)、 最終沈殿池(10/11) 最初沈殿池(8/8)、エアレーションタンク(8/8)、 最終沈殿池(8/8)			
受変電設備	1式		受電容量 約100kVA(単相) 約950kVA(三相)			
自家発電設備	1台		発電容量 約1,250kVA		1/1	
消化ガス発電設備	4台		発電容量 約25kw/基		4/6 4/4	

第5表

ポンプ施設調書						
ポンプ施設の名称	処理区の名称	ポンプ施設の位置	敷地面積 (単位ヘクタール)	1分間の揚水量 (単位立方メートル)		摘要
				晴天時最大	雨天時最大	
該当なし						

ポンプ施設の敷地内の主要な施設					
ポンプ施設の名称	主要な施設の名称	数	構造	能力	摘要
該当なし					

第6表

貯留施設調書				
処理区の名称	主要な貯留施設の名称	主要な貯留施設の位置	貯留能力 (単位立方メートル)	摘要
該当なし				

(様式1) 施設の設置に関する方針

主な施策 (事業計画に基づき今後実施する予定の事業に関するものを記載)	整備水準				事業の 重点化・効率化の方針	中期目標を 達成するための主要な事業	備考	
	指標等	現在 (平成27年度末) (平成30年度末)	中期目標 (令和9年度末) (平成39年度末)	長期目標 (令和29年度末) (平成59年度末)				
汚水処理	下水道 処理人口 普及率	66.7% 69.3%	79.5%	82.7%	ふくしまの美しい水環境整備構想を目標とし、人口密度が高い地域から優先的に整備を進める。	会津若松処理区 管渠整備事業		
浸水対策	都市浸水 対策達成 成率	整備目標 重点地区			地域の实情に応じた雨水対策を行うため、計画区域一律の整備水準ではなく、地域ごとに浸水リスクに応じた目標を設定する。 対策強化地区及び一般地区においては、雨水幹線等の整備とともに雨水貯留・浸水対策等のソフト対策により50mm/hまでの浸水被害の解消を目指す。 また、内水ハザードマップを作成し、情報提供を行っていく。	会津若松処理区 雨水幹線整備事業		
		整備目標 40mm/h 一般地区	25.4% 28.0% (379.5 ha)	31.0% 57.0% (463.2 ha)				100.0% (1,492.4 ha)
		整備目標 34mm/h その他の地区	100% (837.6 ha)	100% (837.6 ha)				100% (837.6 ha)
		高度処理	—	—				—
合流式 下水道の改善	—	—	—	—	—	—	—	
汚泥の 再生利用	肥料として 有効利用された割合	下水浄化工場 70%	85%	100%	発生汚泥の肥料利用に 極力努める。	—		
その他								
処理水の 有効利用	—	—	—	—	—	—		
雨水の 有効利用								

(様式2)

施設の機能の維持に関する方針

a) 主要な施設に係る主な措置

i) 劣化・損傷を把握するための点検・調査の計画

主要な施設	点検・調査の計画
管渠施設	施設の重要度に応じて、概ね5年から15年に一度点検を実施。点検の結果、異状の可能性のある箇所についてテレビカメラ等による調査を実施。
汚水・雨水ポンプ施設(ポンプ本体)	調査を概ね15年に一度実施し、修繕・改築の必要性を検討。
水処理施設(送風機本体)	調査を概ね20年に一度実施し、修繕・改築の必要性を検討。
汚泥処理施設(汚泥脱水機)	調査を概ね15年に一度実施し、修繕・改築の必要性を検討。

ii) 診断結果を踏まえた修繕・改築の判断基準

会津若松処理区

主要な施設	修繕・改築の判断基準
管渠施設	管渠:緊急度※1I、マンホール蓋:健全度※2A、マンホール本体:健全度※3IV及びVのものを修繕・改築の対象とする。
汚水・雨水ポンプ施設(ポンプ本体)	健全度2以下のものを改築の対象とする。
水処理施設(送風機本体)	健全度2以下のものを改築の対象とする。
汚泥処理施設(汚泥脱水機)	健全度2以下のものを改築の対象とする。

※1(公社)日本下水道協会 下水道維持管理指針-実務編2014版- p.117に基づく緊急度

※2(公社)日本下水道協会 下水道維持管理指針-実務編2014版- p.253に基づく健全度

※3(公社)日本下水道協会 点検調査マニュアル(案)平成25年6月 p.77に基づく健全度

iii) 改築事業の概要(令和元年度～令和9年度)

主要な施設	改築事業の概要
管渠施設	延長:概ね1,750m 5号幹線、七日町、居合町地区外の改築修繕
汚水・雨水ポンプ施設(ポンプ本体)	汚水ポンプ(揚水量:約21m ³ /min×1台) 汚水ポンプ(揚水量:約8m ³ /min×1台)
水処理施設(送風機本体)	— 送風機(約85m ³ /分×1台)
汚泥処理施設(汚泥脱水機)	脱水能力:約10m ³ /h×1台 —

b) 施設の長期的な改築の需要見通し

(管路)

改築の需要見通し (年当たりの概ねの事業規模の試算)	試算の対象時期	試算の前提条件
年当たり概ね127百万円	概ね100年間	目標耐用年数75年

(処理場)

改築の需要見通し (年当たりの概ねの事業規模の試算)	試算の対象時期	試算の前提条件
年当たり概ね289百万円	100年間	土木・建築は目標耐用年数100年、 機械・電気設備は目標耐用年数30年で改築

イ)経費の部

(単位：千円)

年次	建設費					維持管理費及び起債償還費				合計
	管渠	ポンプ場	処理場	計	うち用地費	起債元利償還費	維持管理費	その他	計	
昭和47年度～平成30年度	54,390,023 54,378,323		13,772,600 13,788,375	68,162,623 68,166,698	281,950 281,950	51,425,177 51,888,743	17,912,797 17,604,663	95,000	69,432,974 69,493,406	137,595,597 137,660,104
令和元年度	1,077,920 633,400		82,000 117,300	1,159,920 633,400		1,366,648 1,492,703	673,809 555,000	66,400	2,106,857 2,047,703	3,266,777 2,681,103
令和2年度	1,105,125 599,000		230,000 117,300	1,335,125 716,300		1,325,393 1,473,712	673,809 555,000		1,999,202 2,028,712	3,334,327 2,745,012
令和3年度	1,152,000		210,000	1,362,000		1,409,529	555,000		1,964,529	3,326,529
令和4年度	1,048,340		246,500	1,294,840		1,380,771	555,000		1,935,771	3,230,611
令和5年度	1,091,717		369,600	1,461,317		1,333,229	555,000		1,888,229	3,349,546
令和6年度	1,016,173			1,016,173		1,290,032	555,000		1,845,032	2,861,205
令和7年度	1,057,433		235,200	1,292,633		1,270,721	555,000		1,825,721	3,118,354
令和8年度	1,046,860		394,100	1,440,960		1,254,975	555,000		1,809,975	3,250,935
令和9年度	994,320		348,300	1,342,620		1,196,237	555,000		1,751,237	3,093,857
令和元年度～令和9年度小計	2,183,045 8,639,243		312,000 1,921,000	2,495,045 10,560,243		2,692,041 12,101,909	1,347,618 4,995,000	66,400	4,106,059 17,096,909	6,601,104 27,657,152
合計	56,573,068 63,017,566		14,084,600 15,709,375	70,657,668 78,726,941	281,950 281,950	54,117,218 63,990,652	19,260,415 22,599,663	161,400	73,539,033 86,590,315	144,196,701 165,317,256

ロ)財源の部

(単位：千円)

年次	建設費						維持管理費及び起債償還費				合計
	国費	起債	他会計繰入金	受益者負担金	その他(県費等)	計	下水道使用料※	他会計繰入金	その他	計	
昭和47年度～平成30年度	22,468,345 22,562,154	38,164,673 38,282,573	4,470,498 4,242,106	1,674,809 1,701,585	1,384,298 1,378,280	68,162,623 68,166,698	32,554,664 32,869,102	36,303,950 36,192,769	574,360 431,535	69,432,974 69,493,406	137,595,597 137,660,104
令和元年度	356,000 227,540	662,400 374,180	88,399 9,410	44,625 17,760	8,496 4,510	1,159,920 633,400	1,570,091 1,688,000	469,879 359,703	66,887	2,106,857 2,047,703	3,266,777 2,681,103
令和2年度	432,653 364,010	750,800 319,690	97,658 9,680	44,339 18,300	9,675 4,620	1,335,125 716,300	1,558,213 1,688,000	440,502 340,712	487	1,999,202 2,028,712	3,334,327 2,745,012
令和3年度	563,400	736,270	18,500	34,970	8,860	1,362,000	1,688,000	276,529		1,964,529	3,326,529
令和4年度	534,480	702,370	17,220	32,530	8,240	1,294,840	1,688,000	247,771		1,935,771	3,230,611
令和5年度	626,350	772,050	18,690	35,300	8,927	1,461,317	1,688,000	200,229		1,888,229	3,349,546
令和6年度	386,760	578,580	15,100	28,510	7,223	1,016,173	1,688,000	157,032		1,845,032	2,861,205
令和7年度	532,670	701,780	17,280	32,630	8,273	1,292,633	1,688,000	137,721		1,825,721	3,118,354
令和8年度	617,150	762,570	18,200	34,360	8,680	1,440,960	1,688,000	121,975		1,809,975	3,250,935
令和9年度	562,070	722,970	17,100	32,300	8,180	1,342,620	1,688,000	63,237		1,751,237	3,093,857
令和元年度～令和9年度小計	788,653 4,414,430	1,413,200 5,670,460	186,057 141,180	88,964 266,660	18,171 67,513	2,495,045 10,560,243	3,128,304 15,192,000	910,381 1,904,909	67,374	4,106,059 17,096,909	6,601,104 27,657,152
合計	23,256,998 26,976,584	39,577,873 43,953,033	4,656,555 4,383,286	1,763,773 1,968,245	1,402,469 1,445,793	70,657,668 78,726,941	35,682,968 48,061,102	37,214,331 38,097,678	641,734 431,535	73,539,033 86,590,315	144,196,701 165,317,256
下水道使用料 ※関連事項	接続率：86%（令和元年度：初年度） → 100%（令和12年度：最終年度）										
	講じる対策： 職員や下水道協力員による戸別訪問を中心とした普及活動の実施を継続する。 また、これにあわせて、排水設備工事の融資あっせん制度のさらなる周知を図る。										
	有収率：77%（令和元年度：初年度） → 90%（令和12年度：最終年度）										
講じる対策： 不明水対策として、地下水使用状況調査を地区ごとに段階的に実施していく。また、雨天時の流入水対策として、マンホールの補修工事・公共汚水ますの入替え・管路の更生工事を随時実施していく。											
その他の講じる対策											
令和元年度までの試算では、下水道使用料の改定が必要な経営状況とはならない見込みであることから、改定は行わないこととしている。なお、令和2年度からの企業会計化に移行しており、企業会計手法のメリットを活かし、中長期的な視点での財政基盤の強化を図っていく。											